

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【人文科学研究科 地理学専攻 修士課程】
試験科目 【専門試験 地理学】

## 【出題意図】

基本的な地理学的知識の理解度と、それを文章として表現する能力を問う。

【解答上の注意】 以下の問題 I～問題 IVのうち、二つの問題を選択して解答すること。

**問題 I** 生物多様性は、遺伝子、種、生態系の3つの階層（レベル）の多様性を含む概念と定義されている。これらの多様性は、生物の空間分布と深く関わっている。このことを踏まえて次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 遺伝子、種、生態系の地域による違いはどのように生じたと考えられるか論じなさい。

## 【正答・解答例】

生物の分布は、地球規模では生物の進化と拡散の影響を強く受けている。突然変異によって生まれた遺伝子が変異前の遺伝子よりも優生であれば、世代交代を通じて、種内で広まっていく。生息環境が一定であれば、遺伝子の多様性は生じにくい。生息環境が多様であったり生息空間が分断されたりすると複数の遺伝子が残り、その蓄積が種の多様性をもたらすことになる。

さらに、種の分布の違いが、空間を共有する種の構成の差をもたらす。生物群集の違いとしてあらわれる。これが、生態系の地域による違いを生むことになる。

(2) 生物多様性を衰退させる要因をあげ、その地域による違いを説明しなさい。

## 【正答・解答例】

生物多様性を衰退させる要因は大きく4つにまとめられる。

人間による開発は、生態系を破壊し、多くの生物を絶滅させてしまう。例えば、熱帯地域で見られる森林伐採は多くの生物の生息の場を奪っている。都市への人口集中に伴う、都市域の拡大も開発による生態系の破壊を生んでいる。

一方で、人間による自然に対する働きかけの縮小も、生物多様性を衰退させてしまう。例えば、日本の中山間地域における過疎化は、農業を支えるために保たれてきた里山の変化を通じて、生物多様性が喪失させている。

人間の移動や、流通の増大も生物多様性を衰退させている。大陸間でのヒトやモノの移動が活発になることによって、多くの種が移動できるようになり、地球規模での生物相の画一化が、多様性を衰退させている。

そして、地球温暖化は、生物の移動をもたらす。特に寒冷な地域や高標高域で、生息空間を他の種に奪われる種も今後、増加すると考えられる。

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅱ 近年、世界各地の都市において水害が発生し、人的被害や経済的被害が生じている。被害の拡大の背景について、地理学的観点から論じなさい。

## 【正答・解答例】

近年、世界各地の都市において洪水や高潮、内水氾濫などの水害が頻発し、多くの人的被害および経済的被害が発生している。これらの被害が拡大している背景には、自然環境の変化のみならず、人間活動による都市空間の変容が深く関係しており、地理学的観点からその要因を多角的に捉える必要がある。

第一に、自然的要因として気候変動の影響が挙げられる。近年、短時間に集中して降る豪雨が世界的に増加している。特にモンスーン地域や中緯度地域の都市では、従来の治水インフラの許容量を超える降水量が観測され、河川の氾濫や都市型水害を引き起こしている。また、海面水位の上昇はデルタ（三角州）に立地する沿岸都市において高潮や塩水遡上を深刻化させ、被害の長期化・広域化を招いている。

第二に、人文的要因として都市化の進展が水害リスクを高めている点が重要である。多くの都市では人口集中に伴い、市街地が河川沿いや低湿地、デルタなど、本来水害に脆弱な地域へと拡大してきた。これらの地域は地形的に排水が悪く、洪水が発生しやすいにもかかわらず、土地利用の高度化が進められてきた。また、アスファルトやコンクリートによる地表面の被覆は雨水の浸透を妨げ、短時間で大量の雨水が下水道や河川に流入することで、内水氾濫を引き起こしている。

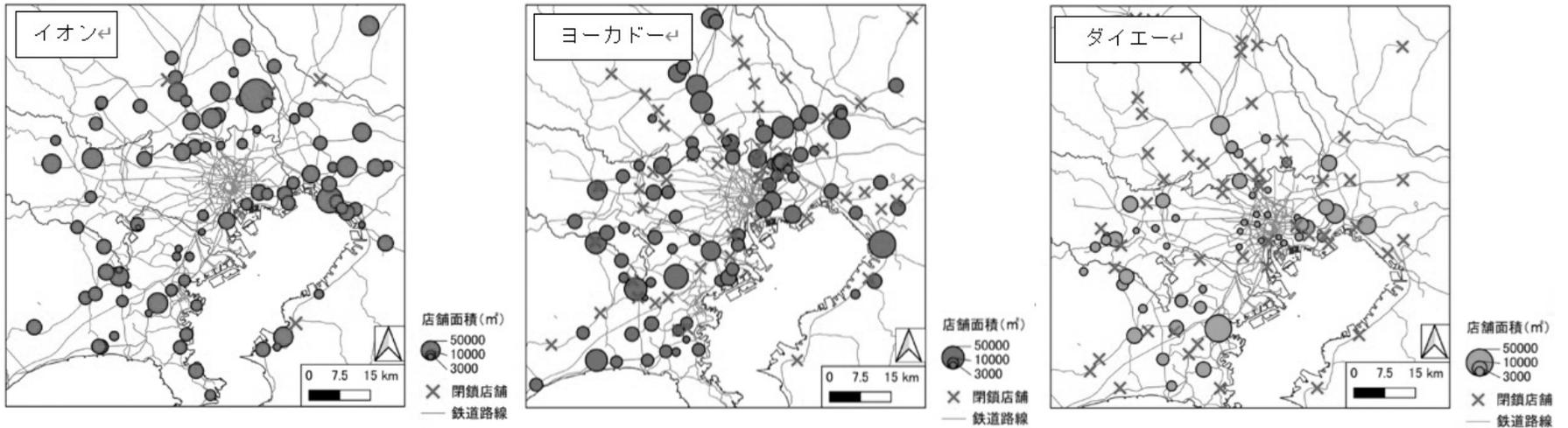
第三に、都市構造と社会経済的要因の地域差も被害拡大に影響している。先進国の都市では治水インフラが整備されている一方で、老朽化や想定外の災害への対応不足が問題となっている。他方、開発途上国の都市では急速な人口増加にインフラ整備が追いつかず、居住域が河川沿いや斜面地に形成されやすい。このような地域では、防災情報の不足や貧困層の脆弱性も重なり、人的被害が拡大しやすい。

さらに、グローバル化に伴う都市間競争の激化も間接的な要因である。経済成長を優先した土地開発やウォーターフロント開発は、防災よりも経済効率を重視する傾向を強め、水害リスクを内包した都市空間を生み出してきた。これは地理学が重視する「人間と環境の相互作用」の歪みを示している。

以上のように、都市における水害被害の拡大は、気候変動という地球規模の自然環境変化と、都市化や社会経済構造といった人文的要因が重なり合った結果である。地理学的観点からは、地域ごとの自然条件や土地利用、社会構造の違いを踏まえた総合的な防災対策が求められており、持続可能な都市形成のあり方が今後の重要な課題である。

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅲ 下の図は、それぞれイオン（旧ジャスコ）、イトーヨーカドー、ダイエーの店舗と廃業店の分布を示している。それぞれの立地や廃業店の特徴、その背景について、制度などを踏まえながら説明しなさい。



東京周辺における大手スーパーチェーンと廃業店の立地 (2001～2024年) ←  
(資料: 各年次『全国大型小売店総覧』(東洋経済新報社)より作成) ←

## 【正答・解答例】

日本では、1970年代から地元中小小売店を大型店舗から守るため、いわゆる大店法が制定されていた。そのため、1970年前後から急成長を遂げていた大手小売チェーンでは、特に都市部において大型店を出店する場合、地元商業者団体等との出店調整が必要であり、その結果、比較的小規模な店舗を出店せざるを得ない状況が続いた。

イトーヨーカドーとダイエーが1970年代から店舗網を広げたのに対してジャスコ（イオン）は後発となっている。1970年代はモータリゼーションが今ほど発達しておらず、駅前に多くの店舗を出店させている。イトーヨーカドーも駅前立地が多いが、ダイエーのように地価の高いターミナル駅ではなく、郊外の駅前への出店が目立つ。一方、最後発のジャスコ（イオン）は、1990年以降の大店法の規制が緩和された時期に出店を加速させたことから、鉄道駅から離れた幹線道路に立地しており、また店舗の規模も大きい。

2000年以降、ダイエーはそれまで経営を支えていた出店戦略が地価の下落によって破綻し、2000年代にリストラを進めた一方で、維持管理費が少なく、収益性の高い小規模店舗を残した。イトーヨーカドーもロードサイド店に顧客を奪われ、老朽化し採算が悪化した郊外駅前店舗を業態転換したり、閉店したりし、リストラを進めている。一方、イオンは核店舗のスーパーマーケットこそ自社で運営しているものの、専門店への賃貸の非常が大きく、不動産収入により収益をあげている。

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

**問題Ⅳ** フィールドワークにおいて、景観を観察する際の視点、得られたデータの整理・分析方法、およびそこから見いだせる地理的特徴について述べよ。自らの経験に基づいた具体例を用いてもよいが、一般性のある論述を心がけられたい。

## 【正答・解答例】

富山県の砺波平野では、家屋が散居し、それぞれの家屋は防風林（カイニヨ）に囲まれている。カイニヨは冬季の北西季節風に対する防雪・防風の目的で植栽されることから、カイニヨの方向に着目することで、地域の卓越風の方角を読みとることができる。

現地調査または空中写真判読により、各家屋における防風林の方角を把握し、それをデータベース化する。これに基づいて、地図上に防風林の設置方向をプロットする。防風林の設置方向は卓越風に対向すると考えられる。これにより、砺波平野における冬季の季節風の卓越方向を、ミクロレベルで把握・地図化することが可能である。

その結果、砺波平野全域では季節風の吹送方向にしたがい北西成分が卓越するが、扇央から扇頂にかけては西-南西成分が、庄川扇状地の扇頂である金屋から井波においては南西-南成分が強く表れることがわかる。

扇頂部における南成分の出現は、局地風の存在を示唆する。すなわち砺波平野を取り囲む山地から平野に向かって春先にフェーンが吹き下ろす、砺波平野南部では、フェーンの吹送方向に対向して屋敷林が植栽される。砺波平野にはアメダス観測点が2か所しかないが、屋敷林の方角に着目することで、風の卓越方向を家屋単位で把握することができる。

屋敷林の主要樹種は高木のタテヤマスギである。タテヤマスギは防風とともに防雪の役割を果たす。高度経済成長期以降、車庫や若夫婦の住居を建てるなどの目的でカイニヨの伐採が進んだが、そのため屋根雪下ろしの頻度が増えたとされる。

また、カイニヨは、農業用資材としての木材や燃料としての枯れ枝を供給した。カイニヨに植栽されるマダケ・モウソウチクは農業資材として利用できるばかりではなく、飯米の備蓄量が減る春季においては、タケノコを米に混入することで、米の消費を節約することができる。ほかにもカイニヨにはカキ・クリ・クルミをはじめとする果樹・堅果が植栽され、食料自給の一助とされた。南砺市福光町で生産される干し柿は、元来越冬用甘味として自給的に生産されていた干し柿を商品化したものである。カイニヨにおける多様な樹種構成は、加賀藩が特定樹種を保護したこととも関連する。藩はカイニヨを御藪として把握し、乱伐を禁じた。

砺波散居村の景観を特徴づけるカイニヨに着目することで、住民が自然環境へいかに対応してきたかを理解することができる。カイニヨは北陸地方の扇状地性平野の環境に対する住民の対応である。砺波平野の散居村では、単に防雪・防風にとどまることなく、カイニヨを多目的に活用することで、林地の欠落を補った。

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

研究科・専攻 【人文科学研究科 地理学専攻 修士課程】
試験科目 【外国語試験 英語】

## 【出題意図】

日本の地理に関する基礎的な知識と、英文の正確な読解力、ならびに文脈に即した日本語での表現力を問う。

## 【解答上の注意】 全問(問題 I・問題 II)を解答すること。

問題 I 次の日本の海岸に関する【1】～【4】の英文を読み、問1～問4に答えなさい。

The abundantly varied coasts of Japan

【1】

【2】

【3】

【4】

Discovering Japan: A New Regional Geography (Teikoku-Shoin, 2009)より抜粋,一部改変.

# 2026年度 駒澤大学大学院 9月 入学試験問題及び解答例

問1 A に入る適切な用語を下の解答欄に英語で記入し、全体を日本語に訳しなさい。

【正答】

A : Ria

【解答例】

問2 B に入る適切な県名として次の①～④から一つ選択しその番号を丸で囲み、全体を日本語に訳しなさい。

【正答】

① Shimane    ② Tottori    ③ Fukuoka    ④ Saga

【解答例】

問3 C に入る適切な地域名称を下の解答欄にアルファベットで記入し、全体を日本語に訳しなさい。

【正答】

C : Kuroshio

【解答例】

問4 D に入る適切な地域名称を下の解答欄にアルファベットで記入し、全体を日本語に訳しなさい。

【正答】

D : Ariake

【解答例】

# 2026 年度 駒澤大学大学院 9 月 入学試験問題及び解答例

問題Ⅱ 次の英文を読んで、問 1～問 3 に答えよ。



出典：Teikoku-Shoin ed. 2009. *Discovering JAPAN: A New Regional Geography*. Teikoku-Shoin.

問 1 文章中の空欄 (A) に当てはまる最も適切な語を、次の①～④からひとつ選べ。

- ① foreign    ② local    ③ rice    ④ small

【正答】 ①

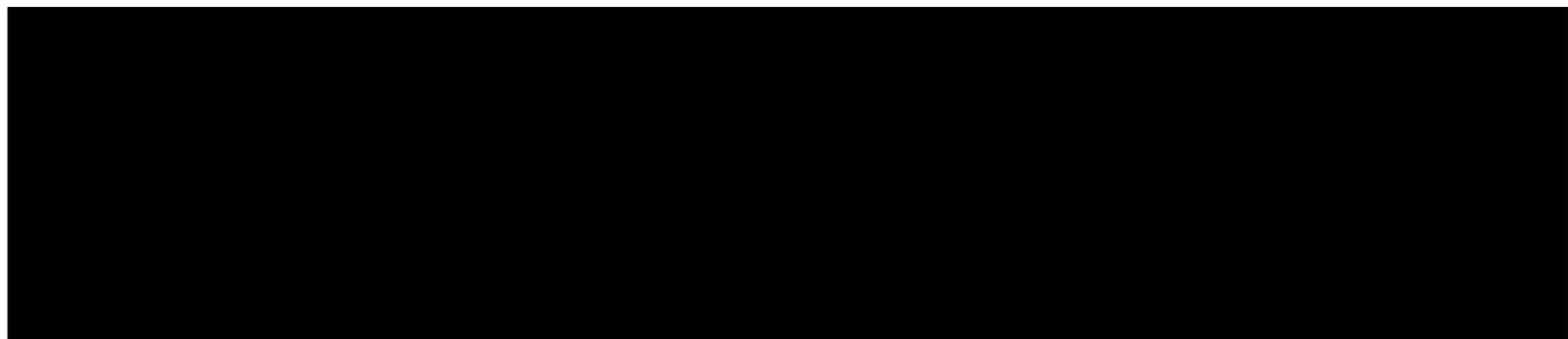
問 2 文章中の空欄 (B) に当てはまる最も適切な語を、次の①～④からひとつ選べ。

- ① energy    ② fuels    ③ labor    ④ pesticides

【正答】 ④

問 3 空欄部分の和訳を含めて、全文を日本語に訳せ。

【解答例】



---

---

---

---

---

---

---

---